

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102525		
法人名	有限会社 かがやき		
事業所名	グループホーム百花		
所在地	岐阜市前一色1-4-18		
自己評価作成日	令和7年9月20日	評価結果市町村受理日	令和7年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2170102525-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>① 持てる力を活かした生活と笑顔のある生活。 ・身体機能低下の早期発見と早目の対応。 ・関わる全ての人と信頼関係がある。</p> <p>② 利用者さん一人一人の喜び、楽しみを見つけ、実現させる施設。 ・当施設は、利用者さんの様子をラインを通じて写真にてお伝えしております。</p> <p>③ 職員同士が仲良く思いやりながら、質の高い介護を目指し楽しく働ける職場。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、2023年から2025年5月にかけて、管理者や介護支援専門員の交代による体制変化があった。新体制での運営が落ち着いた現在は、経験豊かな介護職員によって、9人の利用者が穏やかな生活を送っている。職員手作りの出来たての食事は、利用者の状態に適した形態で提供している。毎週担当医が事業所を訪れ、4~5名の利用者が1週間毎に健康チェックを受けている。必要時には医師の特別指示により、訪問看護が受けられるようサポートしている。また、利用者の様子をSNSを活用して家族に写真で伝える取り組みを行っており、家族に喜ばれている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている(参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングの壁に基本方針の項目が掲示しており、職場も利用者も常に目にすることが出来る。毎月、全員参加のミーティング開始時に読み上げ、介護の基本点に立ち返り、実践に繋げている。	常に職員や訪問者が確認できるよう、リビングの壁に事業所の基本方針を貼っている。職員は毎月のミーティングの際には皆で唱和し再確認している。玄関前の階段にも、重要事項の説明と基本方針を掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、回覧で地域の行事予定を確認しながら、敬老会など、できるだけ参加するようにしている。近隣住民との挨拶や隣接する畑で作業する人と言葉を交わしている。野菜の差し入れがあることもあり、地域の一員として交流している。	自治会に入っており、回覧板等で地域の情報を得ている。地域活動への参加は職員不足もあってできていない。利用者が家族と共に敬老会に参加したり、近所の人からの野菜の差し入れがあるなど、近隣との交流関係はある。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録を残して、ミーティングで報告を行い、全職員が共有している。家族への参加呼びかけを意識的に行っているが、都合により参加得られない場合もある。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、地域包括支援センター職員や利用者家族の参加を得ている。市職員は半年に1度出席があり、運営状況について報告し意見交換をしている。会議録は事業所に掲示してあり、誰でも閲覧できる。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政とは密に連絡を取り、運営推進会議において、事業所の活動内容を報告し、運営上の相談しながら助言を得て、良い関係を築いている。	市主催の研修申し込み、運営に関する不明点の確認や相談等を行なっている。利用者の社会保障制度についても担当者で連携している。利用料が出来るだけ、本人や家族の負担にならないよう相談しながら、事業所の経営努力についても情報共有している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。四方を囲むベット柵は使用していない。安全の為、やむを得ず使用する場合は、家族の承諾を得ている。	危険回避の判断が難しい利用者が、車椅子から立ち上がってしまう場合があり、安全のための一次的ベルトの使用をすることがある。家族の了承を得るほか、必要最小限の制限とし、毎月の会議で検討を行っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が年間を通して学ぶ機会を設けている。介助や言動に至るまで、虐待と思われる行動がないように注意を払い、防止に努めている。	委員会を3ヶ月に1回行い、会議録は職員全員が閲覧し捺印をすることにしている。また、代表・管理者が資料を準備して学習会を行ったり、職員とコミュニケーションを図る中で、ストレスの察知・軽減への配慮をし、虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一職員が、日常生活自立支援事業の専門員として従事していた経緯があり、意識した介護に取り組んでいる。年間を通して学ぶ機会を設けている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族の困りごとや不安を聞き取り、全て納得してもらった上で、契約している。改定時には、理由を説明して利用者全員の同意書(記名・捺印)をもって実施している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が自由に意見を表明できるよう意見箱を設置し、重要事項説明書にも、苦情相談窓口を案内している。ケアの中で把握した利用者の思いや意見は個人記録に記載し、職員間で共有している。早期対応が必要な案件は、管理者と速やかに連絡がとれる体制にある。	代表は、介護支援専門員を兼務しており、利用者家族と直接LINEを利用しながら、連絡・報告などを行っている。利用者の状態変化についての報告や、利用者家族からの要望や質問など、速やかに対応する事が出来ている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、それぞれの職務を通じて感じたことや意見を随時ケアマネジャーや管理者に伝えている。月1回の全職員参加によるミーティングで意見を出し合い、管理者は提案内容を代表者に報告し、運営や業務改善に繋げている。	代表が介護支援専門員を兼務している事で、利用者の状態も把握し、職員の勤務状況を確認しながら、現場で運営について見聞きしている。意見交換も日常的に行っている。また、会議での職員意見や提案を取り入れ改善に繋げている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	労働時間や給料、手当面など、個人的な事情を出来る限り取り入れて、働きやすい環境を整えている。	代表は、職員の希望に沿った勤務シフトを作成し、有給休暇の取得等も促している。食堂兼多目的スペースの一角に、職員用の椅子と机を設置してあり、職員は利用者の様子を見ながら、そこに座って休憩を取っている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者や管理者は、必要な外部研修への参加を積極的に呼びかけ、研修費用や交通費は会社が負担している。また受講した職員は、内部研修を実施し、職員全員の共通意識と質の向上に努めている。	職員の研修参加や資格取得を支援するしくみがある。事業所内の研修や学習会は、代表がスケジュール表の中で計画しているが、年間研修計画として、職員に事前公表はされていない。	身体拘束適正化や虐待防止、感染対策も含め、各種研修・学習会についての年間研修計画がある。事前に職員に計画を公表し、担当順を決めたり、皆が主体的に学べるような取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者が、同業者とのオンライン講習等に参加しており、勉強会を通じて、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人が出来ること、重い物の移動、家事全般など、それぞれが無理なく出来る事をその人の役割として位置付け、助け合いながら暮らしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床、食事、入浴等、標準的な流れに沿った日課を基本としながらも、その時々の利用者の思いに寄り添い、声掛け時の反応も考慮しながら、一人ひとりの暮らし方の希望を尊重したケアを心掛けている。	職員は、出来る限り利用者の要望に耳を傾けるよう努めている。意思表示が難しい利用者については、表情や行動を観察し、そこから思いを察知するよう努めている。職員の心理状態が、利用者を不安にさせる事もある為、常に穏やかな対応を心掛けている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回行う全職員参加のミーティングにおいて、職員、管理者、医者等の意見・情報を出し合い、検討しながら評価と見直しを行い、次の介護計画に繋げている。	ケアマネジャーは直接ケアに携わっていないが、家族との連携、利用者の健康状態、医療情報の把握は出来ている。ミーティングでは、職員の気づきから新たな情報を得て、ケアプラン作成に活かしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の身体の変化、主治医からの指示、職員の気づき、本人からの苦情、希望などを個人記録や職員間のラインにて共有して介護計画の見直しに活かしている。	前回調査で、課題となった生活記録については、項目を追加し簡潔に手書き記録が出来るようになってきている。各自の気づきについては、グループLINEにてリアルタイムに情報共有し、個別援助や業務に役立てている。	情報共有の利便性から、SNSの利用は有効ではあるが、職員間でのルールを书面化し、各自の意識を高める等、情報保護に向けての取り組みにも期待したい。また、個別記録の工夫も継続されたい。
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望、家族とのラインでのやり取りで可能な限り、意見を取り入れた対応に心掛けている。	LINEを利用したやり取りによって、事業所と家族間の個別連絡や、利用者の写真添付等が家族に喜ばれている。代表は、便利であるがゆえ、SNS送信する際の言葉や内容の選択に注意する必要があると、慎重に捉えている。	

岐阜県 グループホーム百花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域からの行事や隣の畑の収穫の呼びかけへの参加など、地域との関わりのある生活として、安全で豊かな暮らしを楽しむことができる。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時には、利用者・家族の同意を得て協力医をかかりつけ医として、定期往診以外にも必要な時は巡回し、職員との情報交換や生活記録の活用で利用者の状態を把握している。適切な健康管理・疾患管理で、利用者・家族の安心に繋げている。	契約の際に、従前のかかりつけ医の継続が可能であると説明している。月2回、協力医の往診があり、投薬による健康管理、必要時の連携体制が整っており協力医に変更する利用者が多い。ケアマネジャーが医師と連携しながら、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	あいにく入院となってしまった時は、出来るだけ本人が困らないように、病院関係者にアセスメント情報を提供して、安心して治療が受けられるようにしている。また、退院後も家族の希望にできるだけ沿うように努めている。	入院時には、代表が利用者の生活状況や状態等のアセスメント情報を提供している。医師の説明を家族に伝えながら、病院に出向いて状況把握に努めている。入院先や協力医、家族との情報交換に努めながら、退院後の受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期についての意向を確認しその後の変化に応じて、再確認している。重度化し入院を希望する場合は、主治医が入院先に情報提供している。看取り希望については、主治医・職員・家族できめ細かなカンファレンスを行い、より良い支援が行えるように取り組んでいる。	利用者の状態によっては、協力医と利用者の主治医の指示を受け、訪問看護を受けられる体制がある。事業所での看取りも可能であることを入居時に伝え、希望を確認している。適宜本人家族に意思の確認を行い、可能な支援について説明しながら対応している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時に備えて年2回の消防訓練時に心肺蘇生法や搬出方法などの講習も取り入れる。急変時や緊急事態発生時に備えてマニュアルを作成し、定期的に研修を実施している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時に備えて、作成した災害マニュアルを使って研修、利用者が高齢であることや事業所が2階にある構造的な課題については消防署の協力により、十分な対策を取っている。近隣在住の職員も多く、自治会の協力体制もある。	災害時には、利用者が階段やエレベーターを利用しての避難が困難な場合を想定し、はしご車による窓からの避難経路確保等、消防署の協力を得る事が出来るとしている。実施訓練に向けて、今後調整していきたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活において、一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないケアに努めている。利用者間のトラブルもほとんどない。研修会で学んだ内容は、職員ミーティングで報告し、共有しながら常に意識するよう努めている。	入浴や排せつ介助時には、特にプライバシー保護に留意している。丁寧な声掛けで利用者も落ち着いてケアを受けているが、疾患による不穏が現れる場合もある。利用者の感情の変化を見逃さないよう心がけ、一人ひとりの人格を尊重した対応ができるよう努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で『あれが食べたい』『飲みたい』とか作品作りでの好みの色や絵柄など、その人の理解度に合わせて自己決定出来るように働きかけている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れに沿って生活しているが、『今日は少し寝坊したい』とか『観たいテレビがあるので寝る時間を遅くしたい』など、その日の体調を見ながら希望に合わせた生活をしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当番の職員が季節感や栄養バランスを考慮した献立で手作りの食事を提供している。食材の説明なども行い、楽しめるよう心掛けています。食前には、全員に嚥下体操を指導して、食べることへの準備や期待感が増すよう工夫している。	業者から届く食材を利用し、担当職員が献立を考え調理している。朝はパン、オートミール、ヨーグルト、湯豆腐、ミルクコーヒーとし、昼は魚料理、夜は肉料理をメインに、家庭的な食事を提供している。利用者の状態に適した硬さや大きさ、量も工夫している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康に配慮した食事を個人の摂取状態に応じた形態で配膳しており、摂取量も毎食時記録に残している。生活空間のテーブルには、常時お茶とコップを設置して脱水を防止し、スタッフが確認している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを義務付けており、自立を目指して、その人の能力に応じた支援をしている。また、歯の破損や劣化の早期発見に努めており、早い時期に歯科受診を行っている。	毎食後、利用者の状態に合わせた口腔ケアを行っている。自立を基本に、職員は利用者の口腔内の観察を心掛けている。協力歯科医の往診を毎週受けることも可能とし、治療が必要な時は、家族の希望を確認し受診を支援している。	

岐阜県 グループホーム百花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録に基づき、一人ひとりの排泄状況を把握し、トイレ誘導を行い自立を促すことを基本としている。夜間は安全に配慮して、おむつを使用している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本として湯船に浸かることを楽しめるよう支援しているが、それが難しい人や体調によってはシャワー浴を行っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の体調や希望に応じて居室環境を良くして休息出来るようにしている。年間を通してエアコンの使用や飲み物の提供、悩み事を聞くことによって安眠の手助けをしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋→薬の説明や設置は調剤薬局を通じて薬剤師が担当している。また急な症状対応にも相談出来る体制がある。	毎週、協力薬局の薬剤師により利用者の処方薬が届けられている。薬剤情報の管理は代表が行い、グループLINEで職員に周知している。夜勤者が翌日の薬を確認・準備し、毎食前に担当者が確認、服薬支援を行った職員が空の薬袋を確認、一覧表に捺印し管理している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞折り、洗濯畳み、散歩、ドライブ、歌が得意な人など個々の能力を活かしてその人らしく生き生きと生活出来るよう支援している。	季節の行事でイベント食を提供したり、誕生日には、家族から贈り物を預かっている。誕生日会で手渡し、ケーキを食べながら、皆で祝っている。利用者の状態と希望によっては、散歩やドライブに同行している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節やその日の天候、入居者の自立度の状態等、その時々状況を見ながら、少しでも戸外に出かけている。	利用者の介護度が進むと、専属での付き添いが必要となるため、頻回な外出支援には対応できていない。できるだけ戸外に出て、草花や木々の様子を眺め、季節感を味わいながら気分転換を図れるよう支援している。	

岐阜県 グループホーム百花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との外出で本人の希望の日用品を家族の支援で支払い購入している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は携帯電話の持ち込みはないが家族からの電話を取りついたりラインでのビデオ電話でやり取りができるようにしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングは明るく広い。食卓やソファが置かれ、ゆったりと落ち着いてくつろぐことができる。壁や通路には写真や書道などの作品を掲示し、季節を感じさせる飾りもある。空気清浄機や加湿器が設置され居心地良く過ごせるよう工夫している	南側の窓から陽が差し込む明るい共用空間である。ソファやテーブルがあり、利用者がゆっくり寛ぐことができるコーナーが作られている。リビングには、利用者の書初め、様々な活動や行事の際の写真などが飾られている。トイレには、わかりやすい表示がかけられている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースに、ソファと椅子があり、気の合う人と自由に会話が出来たり、新聞や雑誌を読んだり、テレビを観ることが出来る。またひとりになりたい時は、自室でゆっくりできるように環境を整えている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	亡夫の位牌を置くための場所を事業所側で作し、利用者に喜ばれている。大切な物や使い慣れたものを身近に置き、安心かつ心地よく過ごせる居室となっている。季節外の布団や毛布は施設内でまとめて管理しゆったりした居室空間が保たれている		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内を安全に移動出来るように手すりが設置されている。また本人の居室が分かるように、本人顔写真を本人の目線に合わせた位置に掲示してある。		